

## 議事録

会議名	第4回福山市民病院経営強化プラン評価懇談会		
日時 場所	2025年11月5日(水)19時00分~20時10分 ホールコア		
出席者	<p><b>【委員】</b> 西岡 智司、小林 明弘、木宮 高代、清原 昭子、 小野 裕之、田中 知徳、栗江 卓巳</p> <p><b>【院内】</b> 高倉、室、貞森、植木、井上、金尾、渡邊、來山、 近藤、河村、細井、塚村</p> <p><b>【事務局】</b> 西原、柳生、田中</p>	配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・資料1:席次表</li> <li>・資料2:福山市民病院経営強化プラン評価懇談会設置要綱</li> <li>・資料3:懇談会委員名簿</li> <li>・資料4:説明資料</li> </ul>
傍聴者	なし		
議題	項目	検討内容	質問・回答
	経営企画部長	配布資料の確認	
1	病院事業管理者 開会の挨拶	<p>委員の皆様には、本日はお忙しい中、懇談会へご出席いただきありがとうございます。</p> <p>病院事業においては大変厳しい状況が続いております。病院事業の収益は、2024年度において8億7,000万円前年比で増加したもの、それを上回る費用増加がありました。病院としては15億5,000万円ほどの赤字となり、2023年度は10億円の赤字でしたので、5億円ほどの悪化という状況です。こうした状況の説明を会議の中でさせていただきますが、他にも2024年度の各取組、数値目標の達成状況等を見ていただき、忌憚のないご意見を頂ければ大変嬉しく思います。</p> <p>2025年度も、診療報酬の期中の改定がない中で、昨年度と同様に病院経営は非常に厳しい状況にありますが、今年度の取組についてもご意見を頂ければと思います。</p> <p>どうかよろしくお願ひいたします。</p>	
2	経営企画部長 出席者の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員7名を紹介</li> <li>・当院出席者を紹介</li> <li>・本懇談会設置要綱第5条により、議事の進行は座長へお願いします。</li> </ul> <p>座長には、西岡委員へ就任をお願いしたいと思います。 (他委員から異議なし)</p>	

	西岡委員の挨拶	<p>先ほど高倉管理者からもお話をあったように、病院経営について非常に厳しい状況となっております。</p> <p>総理大臣も代わられ、国の動向を見守りたいとは思っておりますが、診療報酬のは正へ着手頂かないと、経営的には成り立たない病院が多いのではと感じております。</p> <p>そういう中、市民病院においては非常に熱心に取り組んでいただいているところは我々も重々承知の上ですが、本日はその現状について委員の皆さまの忌憚のないご意見を頂戴できればと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>	
3 (1)	福山市民病院 経営強化プランの 実施状況について	<p>(事務局からの説明) ・「説明資料」に沿って説明</p>	<p>【説明者】 來山</p>
	意見交換	<p><u>手術室の手術件数(D 評価)の低下について、手術室で実施していた処置を外来へ移したことが挙げられているが、いつから運用を変更したのか？</u></p> <p>→2023年8月から、手術室で行っていた、簡単な病変の処置などを外来処置室に移したため、その分、手術室の件数が減少した。手術件数全体が伸びていないのは、胸腔鏡や腹腔鏡手術など時間のかかるアプローチが増えたこと、および麻酔科医の体制により夜間の緊急手術を受け入れにくくい状況があるため。</p> <p><u>手術件数の目標設定について、2025年度の目標値(5,800件)は高い水準にある。複雑な手術にシフトしている傾向がある中で、この目標値は妥当なのか？</u></p> <p>→現実には手術件数の底上げを図っているが、目標値は計画当初の数字に基づいているため、なかなか変更しがたい部分がある。</p>	<p>【質問者】 田中委員</p> <p>【回答者】 高倉</p>
	意見交換	<p><u>外来延べ患者数は増加しているが、入院延べ患者数は目標値に達していない状況をみると、入院を必要としない外来患者が増加しているということか？(木宮委員)</u></p> <p>→外来患者数自体は実人数・延べ人数とも増えているが、入院に繋がっていないという傾向は見受けられる。(細井)</p> <p><u>入院を必要とせず、通院治療が可能なら市民にとっては良いことだとも考えられるが、病院の経営的には、入院患者を増やしていく方が良いという側面があるのか？(木宮委員)</u></p> <p><u>外来での化学療法等、市民病院でしか提供できない外来診療をしっかりと取り組んでくれたらと思うが、外来の患者数がかなり伸びているので、限られた医療資源を外来へ投入し過ぎると、入院が必要な複雑な治療への対応が難しくなるので、バランスを考える必要があるのでは？(西岡委員)</u></p> <p>→ご指摘の通りだと思う。泌尿器科、循環器内科等では、医療機関からの紹介について、基準を設けて、まず地域の病院で受け入れていただくようにすることで、外来診療での患者数を抑える取組を行っている。(高倉)</p>	<p>【質問者】 木宮委員 西岡委員</p> <p>【回答者】 細井、高倉</p>

		<p><u>入院延べ患者数が増加しているのは、どのような患者、あるいは治療方針の変更が影響しているのか？</u></p> <p>→呼吸器内科の患者が増えていることによって、入院期間が伸びている。(塚村)</p> <p>→入院期間が長くなる要因は様々だが、血液疾患の患者についても入院期間が長くなる傾向にある。外来・入院ともに化学療法の件数が増えており、その結果、機能評価係数Ⅱのうち、複雑性係数が前年度と比較して向上した。さらに、高齢者の患者が増え、手術等で呼吸器系の合併症が起こってしまい、入院期間が長くなる場合もある。(高倉)</p>	<p>【質問者】 小野委員</p> <p>【回答者】 塚村、高倉</p>
		<p><u>病棟によって稼働率の差異があると思うが、例えば、特定の診療科の病棟が満床の時、別の診療科の病棟へ入院できるのか？</u></p> <p>→他の診療科の患者であっても、入院を受け入れるという方針ではあるが、患者の安全を考えて病棟検討を行い、可能な限り早期に元の診療科の病棟へ移動するという調整の上、対応している。(井上)</p> <p>→救急患者が入った場合、対応が難しい場合がある。本来、全てのベッドは病棟のベッドではなく、市民病院のベッドであるという意識で運用するよう指導している。(高倉)</p>	<p>【質問者】 西岡委員</p> <p>【回答者】 井上、高倉</p>
		<p><u>複雑性係数の向上には、造血幹細胞移植の専門医増員の影響があるのか？</u></p> <p>→血液内科の医師が増員したことが要因として大きい。 造血幹細胞移植との直接の関連は少ないと想うが、入院での化学療法が受けやすくなったりし、現実に血液内科の入院患者が増えているので、その影響だと考えている。</p>	<p>【質問者】 田中委員</p> <p>【回答者】 高倉</p>

	<p><u>診療材料費の共同購入による 1 億 840 万円の節減は非常に大きい。どのような仕組みで達成されたのか、わかりやすく説明してほしい。</u></p> <p>→当院が加盟している「日本ホスピタルアライアンス」という、全国の中規模以上の急性期病院が多数加盟する共同購入組織の購買力を利用している。この組織の選定品に切り替え、同規格のものを購入することで、還元金や価格引き下げなどの値引き効果を得ており、これにより大きなコスト削減効果を達成できた。(近藤)</p> <p><u>ペーパーレス化推進の取組が挙げられているが、今回の会議では紙資料が使用されている。ペーパーレス化は、現在どこまで進んでいるのか？院内の会議ではタブレット等を使用しているのか？</u></p> <p>→内部の会議や委員会活動においては、タブレットを活用することでペーパーレス化を推進している。(來山)</p> <p><u>広報等について、他施設ではメールを活用する等ペーパーレス化が進んでいる。削減額が大きいと思うので、市民病院の広報誌等も含めた全体的な見直しが大事だと思う。</u></p> <p>→広報誌については病院としての想いがある。 当院が受け取る他施設の広報誌等について、紙媒体や CD 等の媒体のものもある。自分としては、CD 等で送付されたものは、紙媒体に比べてあまり目を通さないし、やはり紙媒体の方が温かみがあると感じる。 実は、経常収支が赤字となる前から、広報誌のページ数を減らす等の見直しはしている。さらなる見直しの余地はあると思うので、見直しについて考えていただきたい。(高倉)</p>	<p>【質問者】 木宮委員</p> <p>【回答者】 近藤、來山 高倉</p>
	<p><u>資料で初期臨床研修医の説明はあるが、専攻医の状況は？</u></p> <p>→現在は約 30 人程度在籍している。専攻医になると、上級医のアシスタントもしっかりと務められるようになり、チームとして医療を行えるようになるので、働き方改革にも寄与している。専攻医が行きたいと思えるような病院にしたいと思っている。(高倉)</p> <p>→およそ半数程度が、初期臨床研修後、専攻医として在籍してくれる状況。部門によっては、他施設で初期臨床研修を終えた後、専攻医として当院に来る場合もある。 当院は内科、救急科、小児科、放射線科領域の専門プログラムを持っている。これら以外は医局介入の人事となる。プログラムを持っている診療科目については、専攻医を自力で集める必要があるため、年度により人気にはばらつきがあり、人員配置に困る部分もある。今年度は内科が 1~2 名だったが、来年度は 6 名に増える見込みである。引き続き努力していく。(植木)</p>	<p>【質問者】 田中委員</p> <p>【回答者】 高倉、植木</p>

	意見交換	<p><u>2026 年度開設予定の新本館 I 期竣工以降、財政状況は良い方向に向かうのか？</u></p> <p>→依然として厳しいと感じている。周産期母子医療センター初期稼働時の 18 床へ予定通り患者さんが入るかどうかが焦点となるが、現時点では厳しいのではと感じている。プレ NICU を昨年から開始して実績を積んできたので、分娩件数が増えているという側面はある。しかし、地域における高次の周産期医療を担ってきた福山医療センターや、周辺の分娩取扱医療機関も一定数の分娩数を維持しているので、現在の段階ではまだ集患に課題がある。</p> <p>國の方針として医療集約化が進む中で、医師配置等を含めて岡山大学等と協議しながら、少しづつ実績を積んでいくことになると思う。</p> <p><u>2026 年の新本館 I 期開設以降は、周産期母子医療センターが 48 床となるので、一般病床は約 450 床で運営するということか？</u></p> <p>→そうなるが、産婦人科の 30 床については、状況によっては、他の診療科の女性患者が入れるような運用を考えなければならないと思っている。</p> <p>来年度から、婦人科の腫瘍専門医が赴任予定である。現在、この地域には婦人科の悪性腫瘍の手術の修練施設はないが、専門医赴任後は当院でその教育施設としての役割を担いたいと思っている。そうなると手術数が増えていくことになるが、手術枠にも限りがあるので、病院の果たすべき役割を考えて、手術枠の適正な運用を考えねばならない時が来ると感じている。</p>	<p>【質問者】 西岡委員</p> <p>【回答者】 高倉</p>
	意見交換	<p><u>今後も建設物価の上昇が予想されるなか、長期にわたる増改築事業における事業費への影響について、どのように対応していく考えか？</u></p> <p>→現在、工事に着手しているが、施工段階における技術的な見直しや設備仕様の工夫など、可能な限りのコスト縮減に継続的に取り組んでいる。加えて、交付金や国庫補助制度といった國の財政支援を最大限活用した財源確保にも注力しており、引き続き、病院事業として大きなコスト負担が生じないよう取り組んでいく。</p>	<p>【質問者】 小林委員</p> <p>【回答者】 渡邊</p>
	意見交換	<p><u>岡山大学病院への看護師・助産師等の研修後、学んだ成果を院内へ共有する際に、共有する側・される側双方の負担が少なくなるように配慮してほしい。</u></p> <p><u>また、経営状況が厳しいのは承知しているが、そのためには職員の処遇に影響が出ないようにしてほしい。</u></p>	<p>【意見者】 栗江委員</p>
(2)	福山市民病院への要望	<p><u>全国的に赤字の病院が多い中で、多面的に努力している様子が伝わってくる。</u></p> <p><u>先日、各ブロックの議会報告会がある中で、市民から、「地域に産婦人科が少ないが、災害時はどのように対応されるのか」という質問があった。市民病院においては、来年度には周産期母子医療センターが開設され、建物についても免震対応をとるなど、経営状況が厳しい中でも市民ニーズに応えようとしている姿勢があり、ありがたいと思う。</u></p> <p><u>今後も、この方向性で取り組んでほしい。</u></p>	<p>【意見者】 小野委員</p>

	福山市民病院への要望	<p>先日、本学(福山平成大学)の教員が、広島県看護協会主催の災害支援ナース養成研修に参加し、災害時の派遣について広島県と協定を締結した。</p> <p><u>市内の主要な病院である福山市民病院との連携が必要になると思うので、今後、災害時の取組についても連携を推進してほしい。</u></p> <p>→当院は災害拠点病院でもあるので、訓練を実施したり、要請に応じて DMAT 隊、JMAT 隊を派遣して活動もしたりしており、積極的に対応したいと考えている。</p>	<p>【意見者】 木宮委員</p> <p>【回答者】 高倉</p>
(3)	その他	なし	
4	院長 閉会の挨拶	<p>本日は長時間にわたり多くの貴重なご意見・ご指摘を賜りありがとうございました。頂いた意見をもとに、さらに経営強化プランを進めしていく所存です。</p> <p>削れるところは削り、取れる収益は最大限取るという姿勢を貫いても、昨今難しい状況ではありますが、次期診療報酬改定に期待を持ちながら、職員一同頑張っていきますので、今後とも、ご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。</p>	
	経営企画部長 事務連絡	本日の会議の概要については、事務局にて整理のうえ、後日送付させていただきます。	